

おきぬのめきたいせき

2 沖布目北遺跡

所在地：坂井市春江町沖布目

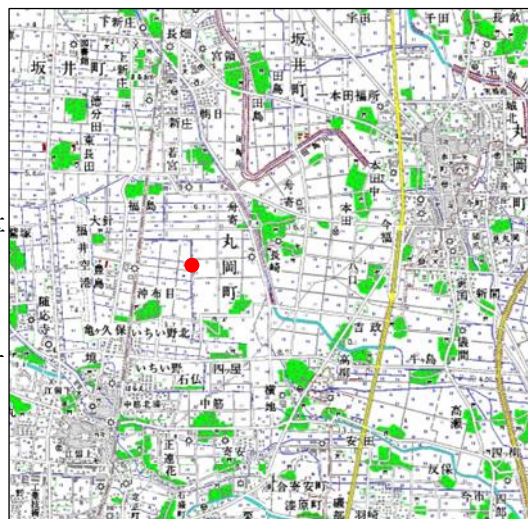
調査原因：一般県道福井森田丸岡線道路改良工事

調査期間：令和6年6月～10月

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：1,800 m²

時代：縄文時代・弥生時代



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 沖布目北遺跡は福井平野のほぼ中央に位置し、竹田川の支川である兵庫川沿いに立地しています。令和3・4年度に主要地方道丸岡川西線福井港丸岡インター連絡道路改良工事に伴う発掘調査が実施され、建物や埋設土器、土器だまりなど縄文時代後期の集落に関わる遺構を数多く検出しています。今回の発掘調査地は、令和3年度発掘調査地の南側に隣接しています。

主な遺構 遺構には、竪穴建物や溝、埋設土器、土器だまり、自然流路などがあります。遺構の時期は、縄文時代後期と、弥生時代中期とに大きく分けられます。

縄文時代後期の遺構には、竪穴建物や多数の柱穴、土器だまりなどがあります。竪穴建物の内部には、石囲い炉や屋根を支える柱の穴を確認しました。石囲い炉の内部にはほぼ完形の土器が出土しました。また、竪穴建物南側に近接して、土器などの生活道具を大量に廃棄した土器だまりを確認しており、竪穴建物の近くに不要になった土器などの生活用具を捨てていたことがわかりました。調査地中央の自然流路から南側は低地域かつ遺構や遺物が非常に少ないため、今回の調査地は縄文時代集落の南側縁辺部であると推定しています。

弥生時代中期の主な遺構には、溝や埋設土器があります。溝からは廃棄された土器や打製石包丁などが出土し、弥生時代中期の集落の存在が明らかとなりました。

主な遺物 縄文時代後期の遺物として、多量の土器や石器のほか、朱塗りの土製耳飾りや水銀朱が付着した磨石も出土しています。また、弥生時代の遺物として、土器や玉作り関連の石器などが出土しています。

(松本泰典)



写真1 調査区近景(北西から)



写真2 竪穴建物と土器だまり(北から)



写真3 竪穴建物内の炉跡(西から)



写真4 捨てられた土器(西から)



写真5 朱塗りの土製耳飾り(北西から)



写真6 打製石包丁(東から)